

会報 安曇野教育

第62号

発行所 安曇野市教育会
発行人 細 萱 稔
編集 会報委員会

発行日 平成31年3月1日
題字 川 田 殖

今年度は、私たちの教育会が創立百三十周年を迎えたことでもあって、各校の代議員をはじめ会員の皆様には、例年に増して大きなお支えをいただきました。ありがとうございます。また、先輩の先生方は、百二十周年以降の十年間、百三十周年に向けて道しるべをつけてくださいました。重ねてお礼申し上げます。

さて、総集会の挨拶でも少し触れましたが、今回記念事業としてブロンズ像にした荻原碌山作の「坑夫」と「女の胴」は碌山がフランスの美術学校アカデミー・ジュリアンで彫刻を学んでいる際の作品です。相馬黒光が新居に持参した油絵「亀戸風景」を見て感動した碌山は、画家を目指して渡米、次いで渡仏し、ロダンの「考える人」を見て衝撃を受け、彫刻家になることを決意します。解剖学等の基礎をしっかり学んでから彫刻に取り組んでいるときに生まれたのが、先の二作品なのです。自分の目標に向かって学び続ける碌山の魂が込められている作品だと言えます。

南安曇教育文化会館二階ロビーで、絶作「女」をはさんで展示されている二つのブロンズ像を見て

「生涯学び続ける」

会長 細萱 稔



いと、碌山から「今のままで良いのか」「もっと勉強」と言われているような気がしてきました。もうひとつ、今年度の教育会事業で特徴的なのは、木村素衛委員会で進めてきた木村先生の日記の判読を、最後まで終えられたことです。大学ノートに万年筆で書かれた日記は、時には哲学論文の草稿のようなものであったり、時には感情が文字に表れているものだったりします。委員の皆様が、大変苦労して読み進め、データにしてくださいました。日記の一部は、翌年の「安曇野の先人等に学ぶ会」で読み合わせ資料として使われますが、それを読んでみると、荻原碌山同様に生涯学び続ける先生のお気持ち伝わってきます。

から「教員の研修というのは、生涯学習につながっているのではなにか」というお話をうかがいました。明日の授業のための研修はもちろんです。教員として人間力を高めるための研修も大切です。これからの先生方の大切な研修の場になればと思います。

教育会この一年を振り返って

庶務担当幹事 堀金 猛(徳高西小)

今年度も会員の皆様のご協力ののおかげで、教育会の諸事業を滞りなく進めることができました。今年度、安曇野市教育会創立百三十周年を迎え、記念事業に取り組みしました。

五月に、記念総集会を実施し、講演会では「安曇野発一三八億光年宇宙の旅」つながっている宇宙・社会・いのち」という演題で、国立天文台天文情報センター准教授／普及室長縣秀彦先生による記念講演を実施しました。会員以外で、人物・読み物委員会で昨年度から取り組んできた「安曇野の偉人務台理作先生」について、豊科東小学校山本美江先生に発表していただきました。参加された皆様から「お話がよかった。もっと多くの先生に聞いてほしい」「自身の職能向上につながった」等の感想が寄せられました。今後とも会員の職能向上はもちろんです。公益法人として一般市民の皆様にも貢献し得る総集会にしたいと思います。

総集会終了後に、百三十周年記念事業としてブロンズ化した荻原様のご協力で感謝申し上げます。

十一月に実施した「次年度事業に向けた調査」では、八五%以上の回答が得られました。し

か、いくつかの課題も指摘い

た。ご意見を参考に改

善の方向を検討し、会員の皆様

主体的に参加し、共に学び合

えたいと思います。一年間の会

員の皆様のご協力に感謝申

第二回事業推進 連絡会報告

一月十八日、各学校の代議員が集まり、第二回事業推進連絡会が南安曇教育文化会館にて開かれました。

まず諸事業の反省が発表されました。実技講習会の反省では、大勢の先生方がそれぞれの講座に参加され盛会だったこと、実技講習会の内容等は、同好会で引き継ぎをすること、特別委員会で前年度の反省を生かし、講座を構想することなどを確認しました。

次に、会員へのアンケートを踏まえた常任委員による事業に関する来年度への方向も示されました。研修日は今年度同様に一回にすること、各種委員会の構成及び研究の方向などを検討していることも伝えられました。

最後に教育会活性化のための方策について話し合われました。より魅力的な教育会にするためには、会員にとって得られるものがあるというプラス面に重きをおき、それをアピールしていくような運営も考えたらどうかなど、活発な話し合いがなされました。

同好会 からの報告

【国語同好会】

豊科南中学校の三尾浩幸校長先生を会長、豊科東小学校の中川由香里教頭先生を副会長として、会員十五名で活動してきました。

十一月の研修会では、小学校の先生は、自作教材や学習カードなどを持ち寄り、日常の実践を紹介しました。中学校の先生は、定期テストを持ち寄り、情報交換しました。国語を専門とする仲間との交流を深め、実践力を高めるよい学びの場となりました。

また、長野県国語教育研究協議会（木曾大会）、長野県国語教育学会夏期研修会（中野市）にも同好会員が参加しました。会員みんなで楽しく研鑽に励むことができた一年間となりました。

（明南小）

【社会科同好会】

豊科北小学校の飯嶋正成校長先生に会長をお願いして、会員三十二名で活動してきました。本年度は、九月に豊科南小学校で「日本の漁業」について、また、明科中学校で「死刑制度」について、

授業を提供していただきました。どちらの授業にも多くの先生方に参加していただき、立場を越えて積極的に意見を交わすことで、授業力向上につなげることができました。また、学習会では安曇野市

文書館館長の平沢重人先生から、文書館を利用した社会科教育についてご講演いただき、県立歴史館館長の笹本正治先生から、古文書を中心として川中島合戦の史実を学びました。

来年度も引き続き多くの先生方に積極的な参加をうながすとともに、三年後の信州社研安曇野大会に向け研鑽を深めていきます。

（明科中）

【算数・数学同好会】

堀金小学校の坂榎邦章校長先生に会長を、穂高西中学校の窪田博之校長先生に副会長をお願いして、会員二十三名で活動しました。昨年度に引き続き、「数学的に考える資質・能力を伸ばす授業のあり方」を研究テーマに、中信ブロック大会へ向けて主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりを深めてきました。研修会は、研修内容だけでなく、教師としての学び方や学び続ける気持ちを更に強くするものになりました。

また、信州大学の茅野公穂先生を講師に講演会を行い、新学習指

導要領で求められる力を育成するための授業構想を学びました。

（穂高東中）

【理科同好会】

豊科南小学校の丸山広樹校長先生を会長とし、会員二十八名で活動しました。「自然事象に関心をもち、その要因を説明する授業」を構想した六月の穂高西中学校公開授業では、小麦粉に炭酸アンモニウムを混ぜて加熱し膨らむという事象から学習課題「炭酸アンモニウムを加熱する」とどのような物質ができるのか、粒子のモデルで予想し説明しよう」に取り組みました。また、七月の天体観望会では火星大接近に合わせ、火星、木星とガリレオ衛星、土星と衛星タイトン、金星等の観望をしました。

研修日には「秋の生物単元授業作り」として地域の特性を活かした素材や教材についてアイデアを出し合いました。

（豊科北中）

【音楽同好会】

三郷中学校の内川雅信校長先生に会長をお願いし、二十七名で活動してきました。記念総集会開会音楽の合唱発表では、会員同士の心をつなぐ清々しい機会をいただきました。また年二回の「こども病院コンサート」では、市内の先生方と大勢で参加し、様々な状況にいるお子さんやそれを支える皆さんと、音楽を通してつながることができました。研修日研修では、内川雅信先生から合唱指導のコツを教えていただきました。音楽の豊かさや教師の役割を深く学ぶことができました。

音楽同好会コンサートを含め自身も音楽を楽しみ、会員同士つながり合いながら、研修を深めていきたいです。

（穂高南小）

【図工・美術同好会】

本年度より、美術同好会から図工・美術同好会へと名称を改称し、会長を穂高南小学校の三溝裕子校長先生にお願いし、同好会員十名で発足しました。主な活動として十月に県展の作品審査を行い、一月に豊科公民館にて巡回展の作品も含めた入選作品の展示を行いました。十一月の研修日は各校の児童・生徒の作品を持ち寄り、教材研究を行いました。



来年度は、県の美術教育研究会が北安曇地区で行われます。そこで、安曇野地区としても研究推進に協力していきます。

(穂高西中)

【体育同好会】

体育同好会は、豊科北中学校の佐藤厚彦校長を会長に、会員数三十五名で活動してきました。

本年度は、県体研安曇野大会が行われました。大会に向け、事前

授業や夏合宿を行い、教材化と教師の教授行為のあり方について研究を深めることができました。大会当日は、小・中学校、どちらの授業も、子どもたちが夢中になって活動に取り組み姿が見られ、盛り上がりました。講演会では、日本体育大学教授の岡出美則先生と信州大学教授の岩田靖先生に教師の教授行為と教材化等についてご指導いただき、学ぶことができました。会員の先生方のご協力のおかげで充実した大会になりました。

(穂高西中)

【技術・家庭科同好会】

本同好会は明南小学校長の早川川正美先生を会長に、会員数十五名で活動してきました。今年度は、関東甲信越ブロック技術家庭科教育研究大会に向けて、授業研究や教材開発を行いました。「衣服を

リメイクし、地域の役に立つ物の製作」という先進的な授業づくりができました。

来年度は技術分野、家庭分野に分かれて新たな教材開発につながる楽しい研修を考えていきます。

ものづくりの好きな先生方は、担当教科に関係なく、ぜひお気軽に本同好会にご入会いただき、一緒に遊びましょう。

(穂高東中)

【道徳同好会】

穂高北小学校の中村弘文校長先生を会長に、会員五名で活動してきました。

研修日研修では、中学校で来年度から使われる「教科書」から、「さよならの学校」という資料を使って、指導案づくりを行いました。中心となる発問について考える中で、主人公の気持ちを考え、それを自分事として広げていくことができ、発問はどのようなものが良いか、意見を交換することができました。また、教科書や補助教材の利用の仕方について話し合ったり、中学校で次年度から始まる評価についての情報交換を行いました。短い時間の中で、充実した研修を行うことができました。

(三郷中)

【哲学同好会】

哲学同好会は豊科東小学校細萱稔校長先生を会長に、会員数四十八名で活動を行いました。六月の「安曇野の先人等に学ぶ会」では木村素衛先生の日記の読み合わせ、七月の「哲学研修講座」では、昨年度に引き続き奈良女子大学文学部の西村拓生先生を講師にお招きし、「表現愛」を読み深めることができました。

木村先生の思想の根本にある人間観を元に、表現を導く「イデア」や美しいものを求める「エロス」、そして、善や美を求める人間の努力を支える絶対的な愛である「アガペ」についてじっくりと考えることができました。難しい言葉や記述が多く、自分だけで解読するには苦しみ内容ですが、西村先生の解説をお聞きしたり、グループ討議を充実させたりしていく中で少しずつ理解を深めることができ、教育につながる点を今後の実践に生かせる希望を描くことができました。

(明科中)

【教育相談同好会】

堀金中学校の白鳥郷史校長先生を会長に、会員十七名で活動を行いました。同好会発足時には、情報交換やミニ研修を行いました。夏休みには、特別支援教育コー

ディネーター会などの合同研修会を行いました。また、生徒指導連絡協議会や研修日研修では、京都大学の市川千明教授のVTRを基に研修を行い、同好会員以外の方にも多数ご参加いただきました。来年度以降も引き続き多くの方に教育相談同好会に関心を持っていただけたらと思います。

(豊科東小)

【人物誌同好会】

穂高東中学校の中村真市校長先生を会長として八名で発足し、活動してきました。

本年度の活動も井口喜源治先生に関わる学びを行いました。一般の方とともに井口先生の筆記した内村鑑三講演会参加記の読み合わせや、平本紀久雄先生や武富保先生の講演会によって、内村鑑三と先生との関係を学ばせていただきました。また、研修日には井口喜源治記念館の館長の松尾恒史先生から、塾の教育精神や記念館所蔵の価値ある資料についてのお話をうかがいました。「良き人になれ」という井口先生の教えは、普遍的な教育理念であり、今も実践に値するものであることを再認識させられました。

(豊科北中)

東西南北

「変わらないもの」

年末年始は実家に帰省することになっている。私の実家は伊勢にあり、幼い頃から元旦は近くの伊勢神宮(外宮)に初詣に行く。

小学校時代は、日曜日になると、外宮の森にある秘密基地に仲間とよく行った。基地を過ごしやすくなるために仲間とリフォームしたり、周辺を探検したり、母親に作ってもらった弁当を食べ、外宮で一日を過ごした。また、夜店で買ったひよこが大きくなると、祖父と外宮に放しに行ったこともある。

伊勢市駅周辺も大きく変わった。駅前大きな百貨店は取りつぶされて観光ホテルとなり、兄が落ちた噴水も今はなくなった。数年前伊勢志摩サミットが開かれたこともあり、若い年代の参拝客も増えてきているように思える。

しかし、神宮だけは変わらない。濡れた玉砂利をザクザク踏んで、早朝に神殿に向かう。夏の朝でも涼しく感じる。実に気持ちよい。どんなに世の中が変わっても、いつまでも変わらない普遍的なもの、「本物」がそこにはある。そして、そんな心よりどころをもっている自分は幸せだと、つくづく思う。

(明南小)

【英語同好会】

三郷小学校の曾根原弘校長先生を会長に、十八名の会員で活動を行いました。

研修日には、日々の授業で使用しているプリントや手作り教材などを持ち寄って実践や指導上の悩みなどについてグループで情報交換を行いました。動詞と簡単なイラストが描かれたカードを使って、どんな活動ができそうかを一緒に考えるなど、よい意見交換の場になったと思います。地味な活動ですが、様々なヒントやアイデアを得られるので今後も行っていきたいと思います。

子どもたちが英語に興味を持って、英語で表現することの楽しさを体感できるような授業を、明日からも考えていきたいと思えます。

(三郷中)

【情報教育同好会】

徳高西中学校の窪田博之校長先生を会長として、十五名で活動してきました。

十一月の研修日には、内田洋行の三上雄輔様を講師に、LINEに特化した情報モラル研修を行いました。CoCora!という情報モラル教材を実際に体験し、生徒間、学校間で起こりそうなトラブル事例動画(合唱コンクール編といじめ編)を見て、LINEの使用に伴って

起こりうるトラブルについて互いに意見を出し合い、対処方法を考え合いました。研修自体は短時間でしたが、生徒に指導する場面を想像しながら、学び合うことができました。

新しい情報技術に興味のある方は来年度是非ご参加ください。

(豊科北中)

【学校保健同好会】

明科中学校の古幡栄一校長先生を会長に、二十名で発足しました。

十二月の研修日では、講師の方をお招きして、学校保健管理ソフトの講習会を開催しました。成長曲線を含む、日々の保健管理や保健統計に活かせる内容を中心に、実際にパソコンを操作しながら講習を行いました。参加者からは、「大変勉強になった」「今後の職務が効率よく行える」「使える機能が増えた。来年度も保健管理ソフトの研修をお願いしたい」等の感想が寄せられました。

(明北小)

【生活・総合研究会】

本年度は徳高西小学校の小林栄子校長先生を会長に、十四名の会員でスタートしました。

今年も教師自身が浸る「大人の生活科」をテーマにしています。

十一月に行われた研修は、「生活科・総合的な学習の時間で培われる力」をテーマに、藤松伸二郎先生に講師をお願いして行われました。

長野師範付属小学校の淀川茂重先生の実践や、現在の伊那小学校、明北小学校の実践から、子どもの学びやそれに立ち会う教師の居方を学びました。改めて生活科・総合の素敵さを感じ、授業

【特別支援教育同好会】

明北小学校の長瀬克彦校長先生を会長に、十七名で発足しました。

郷土の文化財42

「郷土文化財センターの蔵書④」

郷土文化財センターの中に収蔵されている書籍を紹介するシリーズも今年度最後となりました。

最終回は、「長野県方言辞典」です。

長野県の方言を文化遺産として後世に残していくことを目的として作られた辞典です。約二万八千語が収録されています。長野県の方言といえは皆さんは何を思い浮かべますか。言葉一つ選んで読んでみても、懐かしさを感じたり、新たな発見があったりするかもしれません。現代を生きる子どもたちが長野県の言葉を学ぶ学習にも利用できます。

ぜひ一度手にとってみてはいかがでしょうか。

(郷土文化財センター運営委員会)



編集後記

への活力が湧く時間になりました。来年度はさらに会員の先生方と関わられる活動を考えていきたいと思えます。

(明北小)

本年度最終号の会報をお届けします。お忙しい中多くの先生方にごさいました。来年度も、会員同士の活動の様子を共有できる紙面作りを行いたいと思えます。

